



ポットラック
プロジェクト

トーク&イベント

開催日 2024/03/02 sat
- 03 sun

REPORT
05

S&Dスポーツパーク富士見をフィールドとしてさまざまな世代、さまざまに暮らす市民の皆さんにとっての居場所をつくっていく「ポットラックプロジェクト」のトークとイベントが3月2日と3日の2日間、子ども広場で開催されました。両日、延べ700名以上が参加されました。このレポートでは、当日のイベントの様子や、トークの内容をご紹介します。



ポットラック ピクニック vol.2

2回目となる今回は、ワークショップで考えた公園での過ごし方を実際にやってみるお試しイベントです。「みんなで持ち寄る、公園の楽しみ方 公園で「チル」する2日間」をコンセプトに、12のプログラムが展開されました。

ジャングルジム おわかれ会

老朽化したジャングルジムへのありがたうをカードに書いてデコりました。夜はイルミネーションで幻想的な雰囲気。



蓄電池を使う

災害にも便利な蓄電池を知ってもらう体験ブース。スマホ充電から、おもちゃまで？！



太陽の力で ソーラークッキング

天気に恵まれ、ソーラークッカーでホットドッグや焼き芋、ちらし寿司まで調理できました。



ボッチル(ポッチchill) フェス

広場の木々の中、ハンモックやテントのなかで本を読んだり、ぼーっとしたり。子供たちの秘密基地にもなりました。



火おこしから！ 焚き火と 持ち寄りキャンドルナイト

焚き火では、みんなが持ち寄りした食べ物をシェアながら初めての人も輪になってお話し。持ち寄りキャンドルナイトと音楽も相まってチルな夜になりました。



にじいろ フリーマーケット

不要なものを次のだれかのもとへバトンタッチ。洋服から食材までさまざまなものが出品されました。



サステナブルな お買いもの体験

手づくりのグッズを使って、お買い物体験！旬の食材が環境にも良いことなど、楽しく学びました。



フード＆ドリンク出店

市内のパン屋さんやカフェが出店し、フードやドリンクはもちろんのこと、おしゃべりも楽しんでいました。



おもちゃ病院と 手づくりおもちゃ教室

子どもたちに大人気だったおもちゃ病院と手作りおもちゃ教室。2日間きた子も。



健康体操をやってみよう

ゲリラ的に開催された、健康体操。普段室内で行っていますが、外だとのびのび、まわりのかたも一緒にエクササイズ。



羽村のおすすめ 情報を集めよう

地図に市内のおすすめ情報をマッピング。地図をみながら会話がはずみました。



とっかえっこロイダツ

気に入った洋服を受け取った人が、翌日使わなくなった服を寄付に。子ども服を中心に、物々交換の輪がひろがりました。





コミュニティデザイナー
関西学院大学建築学部 教授
studio-L ほか

山崎 亮氏

ポットラックプロジェクトについて

1人でも過ごせる、まちの居場所をつくるというこのプロジェクトを聞いて、ヘンリー・デイヴィッド・ソローという人を出しました。150年も前の人ですが、端的に言うと、キリスト教では7日間のうち6日間働いて1日休もうと提唱していますが、お金をあんまり使わない生活をすれば7日間のうち1日働いて6日間は自分の好きなことをやるのではないかと、2年と2か月と2日実践した人です。例えば服も高い服や外から入ってきたものを買って生活すると、7日間のうち6日は動かないといけなかもしれないけれど、みんなで交換したり、壊れたおもちゃを直したりすれば働く日はもっと少なくしてもいいよ、と。羽村市で例えると、休日も外に出て行って羽村市外でじゃんけんお金使って帰ってきました、ではない過ごし方。羽村市内にチルでできる場所、あんまりお金を使わずにいいなあと思える仲間といった感じに過ごすことができる場所があると、この働く時間を小さくしながらお金を使わずに楽しい時間を増やすことができるのではないかと思います。そういう場所が今は羽村に足りてないので、そういう場所や機会をつくらうと思ったという羽村市の意志と、それに応じて確かにと言って集まった市民の方々がここにいらっしやるので、良いプロジェクトになると感じています。みんなでにぎやかなことをやらなきゃいけないのではなくて、はじめは小さく、でも楽しんでいたらあなたも毎週末てますね、といった人同士がちょっと知り合いになれるというような進め方でもいいのかなと思いました。

四季を通じて試していく

では、そういった過ごし方をどのように、さまざまな人の日常に浸透させていくかですが、これは何回かここでイベント的に体験することでしょうね。少なくとも四季を通じた方がいいと思います。春夏秋冬で公園というのは、体どういう場所なのか、冬だったらこんなことをしたいし、夏はこういうことはできるけどこういうことはやりたくないなどのを一通り体験すると、家の中でやっている活動のどの部分だったら持ち出せるかというのがリアルに現実感をもって想定することができるようになると思います。だから家の中で生活をしているときに、これって公園でできるかもと思いつく頻度が上がってくるまでまずは待つというのが大事だと思います。四季を通じて公園の状況がありありと思いつくようになります。ご自宅にいる間も、これ公園でできるかも、という、庭じゃなくて公園でやった方が楽しいものなのかとも思えます。室内でやっていることを庭に出てやってみるとか、思い切ってイベントの時に、公園に持ち寄ってみるとか、他の方がやっているのを見たり、他の方と話をしてみたりしてこれでいいんだと試していける日常になると良いですね。



「で」より「が」、「が」より「で」

少し例え話をしますが、屋ご飯何食べたい?って言った時に、うどん「で」いいよっていうのは、少し消極的な印象がありますよね。うどん「で」いいっていうのは、聞いた人に対して失礼だし、何よりうどんに対して失礼。やっぱりうどん「が」いいっていうのが良いんじゃないかと思いますが、うどん「が」いいっていう、この「が」がたくさん出てくるとそれはそれで疲れるまじになってくるんですね。「が」がたくさん集うと、コミュニティとしてはちょっとめんどくさい。その「が」をもう一度超えて、これ「で」いいと言える「で」になる。最初の「で」は消極的なのであんまり良くないのですが、「で」を超えた「が」の先にある「で」は納得感がある「で」なんです。この「で」のよいものが、この羽村の公園に持ち寄られてくると、それでいいよね、ああそれでいいよねというもので出来上がる。私が、とか、これが、みたいなものが集うのはちょっと疲れるかなというようなそんな気がしましたね。



道具を追求する

道具ってけっこう大事で、道具を深く考えることをこのチームのみならずでやられると楽しいかもしれません。テクノロジにあまり寄せないというか。道具を便利にしていこうとしていけばいくほど利便性は高まっていくのですが、ある程度を超えると快適性が下がることが起きるんです。家から公園に持って来られるもので日常を公園につなげようと思った時、重要な要素になるのが道具で、座るものが軽かったり座り心地が良かったりするといいんですが高級すぎたりすると合わない、かといって持ち運びやすいが、硬くて座り心地が悪いものでもない、ちょうどいい間にあるようなものをひとつずつみんなで見つけて、それを大切にしていけることができれば、家の中にあった日常を公園に行動として持ち出すことができる気がしますね。

自分たちの哲学を持つ

まちづくりの手法としては、外からきた企業がイベントを行ったり、有名なチェーン店を呼ぶという考え方もあります。そうではないにしても市民参加型で準備して大きなイベントを1年に1回やってみて、みたいなやり方もあるかもしれませんが、このプロジェクトはこれまでとは違うようなじわじわ長く続いていく自分の人生の日々の生活をちょっとだけ面白くしてくれるような出来事と仲間が増えていくことが重要だと思います。ただ、これはあまり周知されづらい。何かお金につながりそうであれば様々なメディアに登場する。だから私たちが目にするメディアで登場するイベントってだいたいきらびやかなものが多いと思います。それは常に協賛企業がいるということを忘れないようにしておいた方がいい気がします。そんなことは関係なく、日常を少し楽しくすること考えられる、自分たちの哲学を持つことが大切だと思います。

Q and A

事前に届いたお便りと、
当日会場からでた質問の一部をご紹介します!

Q.1

studio-L の
社名の由来は?

A.

19世紀の思想家でジョン・ラスキンという人が書いた本の中の「There is no wealth, but life」という言葉があり、「人生こそが財産である」ということだと考えています。人生という財産をどう活かしていくかを考え実践する事業をこれからやれたらいいなと思い、社名にしました。

Q.2

持続的な活動になるために
地縁組織や他の団体との
関係をどう築けばいい?

A.

まず公園での取り組みを成就させておき、活動の知名度と経験値が上がった後に、町内の方と共に何かをやるうとやり始めること。その時には、なぜこういうことをやらなければいけないのかという、大切にしたいという思いを共有するということに時間をかけるのがいいと思います。3年くらいかけると、じわじわと町内の方にも響いていく。最初の出会いがたまたまで、それによって対等に話してくれるかどうか決まりますので、ちゃんと狙った上で、一緒に地域のためになることを考える仲間になり、企画をし、実現していくのが良いでしょう。あまり焦らず、時間をかけて公園の活動を地域に展開していこうと思うのがいいのではないかなと思います。



ポットラックプロジェクトはこれから！

2024年度もポットラックプロジェクトに取り組んでいきます。

四季を通して「トーク」「ワークショップ」「イベント」を定期的で開催していきます。

みなさんの興味にあわせて、取り組みに必要な道具をつくる会や、情報発信について学ぶ勉強会などのスピノフ企画も開催していきたいと思っています。どなたでも参加できますので、一緒にはじめましょう！



トーク

2024年
1月28日
2月10日
3月2日開催

全国の公園や公共空間で活動するゲストから、ヒントをもらうポットラックトーク。



ワークショップ

2024年
1月28日
2月10日
2月18日開催

参加者同士でおしゃべりを楽しみながら、公園でどのように過ごしたいか考えるワークショップ。



イベント

2024年
1月13日
3月2・3日開催

ワークショップで考えた過ごし方を試してみるポットラックピクニック。



興味のある方はぜひ羽村市のウェブサイトへのアクセス、ライン登録をお願いします！ご参加、お待ちしております！

羽村市
公式サイト
はこちら！▼



ポットラック
プロジェクト
公式LINE
はこちら！▼



本事業に関するお問い合わせ

羽村市「3つプロジェクト」
(事務局：羽村市まちづくり部土木課公園管理係)
042-555-1111 (内線 282・283)